

報告

第14回高知福祉機器展バリアフリーフェスティバルに参加して

山中 敏彦

1. はじめに

私は「山中 敏彦」39歳。平成23年、当時35歳の時に脳幹梗塞となり、脳血管障害の（脳動脈乖離：橋）四肢麻痺と運動障害性構音障害になり、「閉じ込め症候群」と診断。

意思伝達装置は私のような四肢麻痺、喋れなくとも機械に自分の伝えたいことを入力をして、機械が代わりに喋ってくれるコミュニケーションツール。例えば、「有り難うございます」と機械へ入力をして音声再生ボタンを押すと機械が代わりに喋ってくれる。機械への入力には、専用のスイッチを使う。私は、少し動く首を動かしてポイントタッチスイッチを顔に当て入力。この文章は、意思伝達装置の伝の心で作成。

2. 第14回高知福祉機器展の概要

開催日：平成27年7月3～5日の3日間

会場：高知県立ふくし交流プラザ

来場者：初日561名、二日目758名（大雨）、最終日674名の合計1,993名



図1 高知県立福祉交流プラザ入口

スタッフ：467名（うち学生88名）

企業展示：136社

3. 機器展の様子

高知では、素敵な人と出会えた。来場された方、新聞記者の方、スタッフの方、etc…。この素敵な出会いに心から感謝。

高知と言えば坂本龍馬。坂本龍馬のファンだった私は高知という地に、心が躍っていた。（私の長男の名前は、龍之介。坂本龍馬の龍をいただき龍之介という名前にした。）

私が、元気な時はJR東海の研修センターで講師として働いていた。病気となり、高知福祉機器展でセミナー講師として依頼をうけた。まさに、社会に参画をさせてもらい、人生が終わりでないことを実感した。また、講師という立場に縁を感じた。当日の天気は大雨だった。講演には、いままで訪問リハビリをしてくれたPTさんが、約100kmも離れた香川から高知まで応援に駆けつけてくれた。講演後の質疑応答のときは、PTさんが久しぶりに文字盤でのコミュニケーションをとってくれた。非常に助かった。

私の「使命」は、あまりにも認知度が低い意思伝達装置の「宣伝マン」となることと、私のような重度身体障がい者でも社会参画が、可能と具体的に具現化し証明することだ。

4. おわりに

私の尊敬する坂本龍馬、素敵な出会いのあった高知。同じ空の下、ともに、頑張ろう！と、心で叫び、新たな目標とともに高知をあとにした。

【私の自慢が出来る凄いラッキーな所は、元気なときも、病気になってからも、人に恵まれている所だ】